

発掘された

尾花沢市の遺跡

令和5年7月27日(木)～8月29日(火) 芭蕉、清風歴史資料館
ギャラリートーク：8月20日(日) 14:00～14:40

おばなざわ はつくつちょうさ 尾花沢市の発掘調査

山形県の北東部に位置する尾花沢市では、現在
縄文時代から近世にかけて 196ヶ所の遺跡が確認
されています。特に縄文時代の遺跡が多く、縄文
時代中期・晩期を中心に 146 遺跡が確認され、そ
の多くが丹生川・朧気川・野尻川の両岸の段丘上
に分布しています。今回県教育委員会により発掘
された3遺跡を公開展示します。

いるかい遺跡

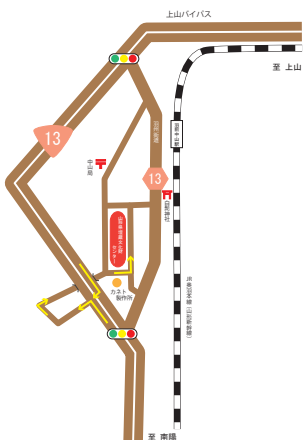
昭和56・57年に2次にわたり発掘調査が
行われました。縄文時代早期から弥生時代
中期まで広範囲の多様な土器が出土しまし
た。確認された堅穴住居跡の時期等から、
縄文時代前期を中心に生活が営まれ、それ
以外の縄文時代の各時期の間、食料採集の
基地的役割を担ったと推測されます。



展示遺跡



発掘作業風景



公益財団法人
山形県埋蔵文化財センター
〒999-3246
山形県上山市中山字壁屋敷 5608
TEL:023-672-5301 FAX:023-672-5586
HP:<https://yamagatamaibun.or.jp>
E-mail:yac@yamagatamaibun.or.jp



はら うち 原の内 A 遺跡

4 次^{たてあなじゅうきよあと}の発掘調査が行われ、^{いこう}堅穴住居跡やフラスコ状土坑等の多数の縄文時代の遺構や平安時代の堅穴住居跡も確認されています。調査により縄文時代中期・晩期を中心として、縄文時代早期（約 7000 年前）から平安時代（約 1200 年前）まで断続的に営まれた集落跡の様子が明らかとなりました。



埋設された縄文土器



3 次調査発掘調査区

なぎさわたてあと 名木沢楯跡

名木沢楯^{おりべ}は織部楯とも呼ばれ、最上川を背に段丘上に主郭^{しゅかく}が築かれ、北東側に空堀^{からぼり}・土塁^{どるい}を挟んで副郭^{ふくかく}が配置されます。戦国時代に国分五郎胤臣^{こくぶんごろうたねおみ}により築城され、楯

内には楯主一族の墓が残されています。農道整備事業に伴い発掘調査が行われ、柱穴跡や土坑、井戸跡等が確認されました。また調査区内を東西に横断する幅 10m^{うしゅうかいどう}の羽州街道が確認され、中世に楯が築かれた後、近世に街道が整備されたと考えられます。



発掘調査区